

第4章 事業活動

1 収集機能

(1) 優秀な資料群(コレクション)の形成

鎌倉国宝館は、仏教美術関連資料及び仏教史を中心としたコレクション形成を目指します。鎌倉歴史文化交流館は、収蔵施設の確保を前提として、考古学・歴史学・民俗学等の歴史系資料及び自然史系資料を収集し、併せて中央図書館所管の近世・近代資料の引継ぎを視野にいれながら、コレクション形成を目指します。

また、優秀なコレクション形成の基準とするため、鎌倉国宝館資料受入指針の見直しを行うとともに、鎌倉歴史文化交流館資料受入指針を策定します。

(2) 資料購入の検討

優秀なコレクション形成の方法として、寄贈、寄託の他に購入について、将来的な予算化も視野に入れた検討を行います。

2 保管機能

(1) 保管施設(収蔵庫)の確保

鎌倉に伝わる貴重な資料を保存し、将来にわたって良好な状態で活用するため、資料に適した温湿度を保つことのできる収蔵庫等の増設が求められます。扇ガ谷一丁目用地に、災害等への備えも十分に配慮され、適正な保存環境を備えた新たな収蔵庫の設置を検討します。

(2) 考古資料の保管

出土品のほか、記録(写真・図面)、報告書等の図書類も広義の博物館資料ととらえ、デジタル化等の措置を講じるとともに、十分な環境で保管することを目指します。

3 調査研究機能

(1) 学術的・専門的分野における調査研究の推進

鎌倉に伝わる数多くの文化財について、学術的・歴史的及び芸術的な価値を確定し、保存と活用に寄与するために、学術的・専門的な分野における調査研

究を推進します。

また、鎌倉市文化財部調査研究紀要への寄稿等、学芸員の個人的専門分野における取組を奨励し、調査研究の一層の充実を目指します。

(2) 博物館施設における技術的調査研究の推進

考古・歴史・美術工芸・民俗・産業等、資料ごとの特性に応じた保存・展示を行うための保存技術・展示技術の研究を推進します。

(3) エコミュージアムの実践・運営に係る調査研究の推進

地方自治体によるエコミュージアムの取組には数多くの事例があり、今後鎌倉市で同事業を行うにあたっては、事例研究を進めていかななくてはなりません。

またエコミュージアムの運営においては、地域住民の主体的な参画や、行政と住民の連携が重要であることから、その実践方法について十分な調査研究を行います。

(4) 調査研究費の確保

上記の調査研究費の確保については、独自予算の他、文部科学省所管の科学研究費助成金等の補助制度の活用等、外部資金の積極的な獲得を目指します。

4 教育普及機能

(1) 鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館それぞれの特色を生かした教育普及活動の展開

鎌倉国宝館では、専門領域である中世から近世の仏教美術・仏教史及び関連する歴史分野の展示(常設展示・企画展示・特別展示)、講座及び体験学習等のイベントを積極的に実施します。

鎌倉歴史文化交流館では、考古学・歴史学・民俗学等の歴史系及び自然史系展示の実施、近代史関連展示の充実等、バランスのとれた鎌倉全般を紹介する展示を目指します。また、各種ワークショップや講座、体験学習等のイベントを積極的に実施します。

(2) 両館ならびに近隣施設との連携強化による積極的情報発信及びイベント等

鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館の連携をさらに強化するとともに、市内の県及び市が運営する5館(神奈川県立近代美術館鎌倉別館、川喜多映画記念館、鏑木清方記念美術館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館)、鎌倉文華館鶴岡ミュージアムや観音ミュージアム(長谷寺)等近隣民間施設との連携事業等を通じて、積極的な情報発信や定期的なイベント開催とその充実を目指します。

また、MLA連携※4を視野に入れた検討も併せて進め、その連携のもとに各所蔵資料のデジタル化について検討し、利用の利便性の向上を目指します。

(3) 市民等の参画によるエコミュージアムの展開

市民等が主体的にエコミュージアムに参画し、住民と行政とが連携して運営することによって、地域に対する愛着や誇り(地域アイデンティティ)を創出します。

その具体的な取組として、各衛星施設(サテライト)において市民等との協働による、現地学習会等のイベントを企画・実施します。

(4) 博学連携による教育活動の活性化

学校教育との連携や生涯学習等、多種多様な教育活動を推進します。

また、近隣施設及び市民との連携によってプログラムの充実を図り、主体的な学びに資する場を提供します。

5 ガイダンス機能

(1) エコミュージアムの紹介

市内の自然遺産、永福寺跡等の史跡、未指定の重要な遺跡、鎌倉文学館や鏑木清方記念美術館、川喜多映画記念館等の市内文化施設、歴史文化関連の民間施設、生涯学習センター等の生涯学習施設、扇湖山荘や旧華頂宮邸等の歴史的建造物等を衛星施設(サテライト)とし、衛星施設(サテライト)を散策する発見の小径(ディスカバリートレイル)を設定します。

これら衛星施設(サテライト)と発見の小径(ディスカバリートレイル)をマップやリーフレット、アクセス道路や交通標識等で案内する仕組みを整備します。

(2) 中核施設（コア）等の活用

ガイドシステムや情報発信等で衛星施設（サテライト）及び発見の小径（ディスカバリートレイル）相互を結びつけるため、中核施設（コア）とする鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館にガイダンス機能を整備します。

また、中核施設（コア）でのガイダンスの他に、効果的なガイダンスを実施するため、他の施設の活用についても検討します。